



東地中海地域ニュース

パレスチナ：新内閣に対する EU 及びイランの反応 (6月18-19日付現地各紙)

1. EU の反応 (18日付「ヨーロッパ」紙)

- (1) EU 外相等は、18日の EU 総務対外関係理事会で、パレスチナ緊急政府を全会一致で支持し、ハマスがメンバーから除外された同政府に対する直接援助の再開を計画している。シュタインマイヤー EU 議長・独国外相は記者団に対し、「我々の政治的支援は財政的援助が伴わない限り効果的にならない」と述べた。ファイヤード新首相（独立系）内閣への政治的支援は間違いなく前進するであろうが、直接援助の即時再開の為の条件は未だ整っていない。他方、イスラエルがハマスによる政権奪取以来凍結していた PA の税収入等の移転を意図していることは全ての者が歓迎している。
- (2) 同理事会に先立ち、ソラナ EU 共通外交安全保障政策上級代表は、「EU が提供する援助資金の一部が、ファイヤードが財務長官として開設し、現在首相として保持している口座に送金されることは疑いない。同政府と直接的な関係が構築されるであろう」と述べた。ヴァルトナー対外関係担当欧州委員は、「ファイヤード首相は、既に国際社会の支援を受ける為の特別口座を開設しているが、直接援助を可能とする管理手続の構築が必要である」と述べ、本件が財政管理と透明性に関わる問題であると強調すると共に、「既に必要な仕組みが構築されたとは思えない」と述べた。ソラナ上級代表は、ガザに住むパレスチナ人を見捨てることはできないとし、国際機関及び TIM（暫定国際メカニズム）を通じた人道援助を行いたい旨を述べた。
- (3) EU 外相等は、リブニ・イスラエル外相に対し、パレスチナ緊急政府への支持と凍結中の PA 税収入等（約 6,000 万ドル）の移転を求めた。リブニ外相は、同理事会後、同資金移転を行う意向を示したが、具体的日付には言及せず、「ファイヤード内閣がカルテット諸原則を承認すれば、同政府との協力が可能となる。この戦略は過激派を弱体化させ、穏健派と共にハマスにとって代わる正統な存在を構築できるであろう」と述べた。

2. イランのモスタファヴィ外務省筆頭次官の発言 (19日付「イラン」紙)

- (1) アッバース大統領による新内閣発足に関する措置は、民主主義に明確に反し、パレスチナの占領地における政治的緊張を更に扇動するものである。
- (2) 我々は常にパレスチナ諸派に対し、可能な限り交渉を通じ、ハニヤ政権への支持を忠告してきた。これ以外の諸措置は政権を弱体化させ、決してパレスチナの人々の利益にならないからである。
- (3) ハニヤ政権という合法的政権とは別に新政権を発足させることは、確実にパレスチナの弱体化につながり、それはまさにコドゥス占領体制（注：イスラエル）が真に望んでいることに他ならない。